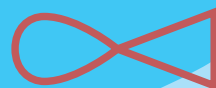


平成27年度リージョナルシアター事業  
Regional Theatre Projects

事業報告書





# INDEX-目次-

はじめに	P 3
事業概要	P 4
派遣アーティストプロフィール	P 6
事業の流れ	P 7
全体研修会プログラム	P 8
参加ホールプログラム一覧	P 9
事業実施	
みくに文化未来館(福井県 坂井市) 実施データ	P 11
アーティストレポート 岩崎正裕	P 14
長野県伊那文化会館(長野県 伊那市) 実施データ	P 16
アーティストレポート 田上豊	P 20
静岡市民文化会館(静岡県 静岡市) 実施データ	P 22
アーティストレポート 田上豊	P 25
三島市民文化会館(静岡県 三島市) 実施データ	P 27
アーティストレポート 内藤裕敬	P 30
延岡総合文化センター(宮崎県 延岡市) 実施データ	P 31
アーティストレポート 多田淳之介	P 34
アウトリーチ学校データ	P 36



# はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携のもと、全国の地方公共団体や関連の公益法人などが実施する文化・芸術活動に対し支援を行なうほか、財団の自主事業として、研修交流事業、公立文化施設活性化推進、調査研究等の事業に取り組んでいます。

本事業は、演劇の表現者(演出家)を公共ホールに最大3回派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施する事業としてリニューアルし、平成25年度はモデル事業として3団体、平成26年度は4団体、そして本年度は、みくに文化未来館、長野県伊那文化会館、静岡市民文化会館、三島市民文化会館、延岡総合文化センターの5団体で実施しました。

各参加ホールのプログラムは、地域のニーズに合わせて自由に企画され、小学校へ出向き授業時間を使ってのアウトリーチ、高校の演劇部員への演劇のワークショップ、地元演劇人に向けてのファシリテーター養成講座など、多彩なプログラムとなりました。

この報告書は、「平成27年度リージョナルシアター事業」において実施した事業内容をまとめたものです。地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者が、演劇の手法を活用したワークショップを企画される際や、公共ホールの担当者と地域の表現者の共同作業を行う際の参考としていただければ幸いです。

平成28年3月  
一般財団法人 地域創造

# 事業概要

## 1 趣旨

一般財団法人地域創造は、公共ホールの活性化と創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、演劇の表現者(演出家)を公共ホールに派遣し演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

## 2 対象団体

### ①地方公共団体

②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体。

③地域における芸術文化活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革三法※による特例民法法人、公益財団法人等((2)を除く。)のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

※「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

## 3 事業内容

演劇の表現者(演出家、以下派遣アーティスト)を公共ホールに派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施します。派遣アーティストは各地域最大3回(研修会を除く)まで派遣します。

### (1)プログラムの実施時間

午前・午後の時間帯に計360分のプログラム、夜間(常識的な開催時刻)の時間帯に計480分のプログラムを実施します。日数と時間の配分は参加団体が提案します。

### (2)派遣回数

最大3回の派遣を行います(研修会を除く)。1回目は打合せや内部の研修、アウトリーチ先の下見に充ててください。

残り2回でプログラムを実施しますが、連続した日程にするなど派遣回数を計2回とする場合は、2回目が原則5泊6日になります。

#### 【実施時間の考え方】

##### ・プログラムの実施時間

午前・午後の360分、夜間(常識的な開催時刻)の480分のワークショップの時間を最小限とし、時間の配分や派遣回数は、参加団体の企画をもとに表現者と微調整します。この時間数や日数を超えるプログラムの場合は、別途謝金や経費が発生し、参加団体の負担となります。

##### ・学校でのアウトリーチについて

学校(小・中・高校等)の授業枠でアウトリーチを実施する場合、1コマの時間は、小学校では45分×2時限(90分)、中学・高校等では50分×2時限(100分)を最小限とします。また、1コマの対象人数は1クラス約30人を目標にしています。

## 4 支援措置

### (1) 一般財団法人地域創造が負担する経費

#### ① 派遣アーティストにかかる経費

派遣アーティストに係る研修会及び、下見、プログラム実施にかかる派遣3回分までの経費(謝金、交通費、宿泊費等)は地域創造が負担します。学校でのアウトリーチを実施する場合のアシスタント2名分の経費(謝金、交通費、宿泊費等)は地域創造が負担します。

### (2) 参加団体が負担する経費

#### ① 研修会参加にかかる経費

ホール担当者の研修会の旅費(交通費、宿泊費等)は、参加団体の負担になります。

#### ② プログラム実施にかかる経費

プログラムを実施する際の経費(会場使用料、機材使用料、消耗品等)は、参加団体の負担となります。

#### ③ その他

規定の時間や日数を超える企画の場合に発生する別途謝金や旅費等の経費は、参加団体の負担となります。参加申込書及び実施計画書を考慮の上、決定します。なお、派遣アーティストの指定はできません。

## 5 プログラムについて

プロの演出家が地域で演劇のワークショップを行うことで、各地域の課題に取り組むことが可能になります。

演劇の手法を使った学校でのアウトリーチ、地元の演劇人や学校の先生、行政職員を対象にした研修会、地元の若い演劇人が派遣アーティストのアシスタントとしてワークショップに関わりステップアップを試みる、子どもたちを対象に演劇に触れる時間を持つなど、地域独自の様々なプログラムを自由に作成していただけます。

# 派遣アーティスト プロフィール

派遣アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、公共ホールの企画するプログラムの内容について、ホール担当者と共に企画検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。

## 内藤 裕敬 (劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)



1959年栃木県生まれ。南河内万歳一座・座長。高校の時に状況劇場『蛇姫様』(作・演出／唐十郎)を見て芝居の道へ。1979年、大阪芸術大学(舞台芸術学科)に入学。4年間、秋浜悟史教授(劇作家・演出家)に師事。その間、“リアリズムにおけるインチキの仕方”を追求。1980年、南河内万歳一座を『蛇姫様』で旗揚げ。以降、全作品の作・演出を手がける。

現代的演劇の基礎を土台とし、常に現代を俯瞰した作品には定評があり、兵庫県立ピッコロ劇団や世界的ピアニスト・仲道郁代との共同企画など、劇団外での作・演出も多数。2000年読売演劇大賞・優秀演出家賞受賞。著作に『内藤裕敬処女戯曲集劇風録其之壱』『青木さん家の奥さん』がある。

## 岩崎 正裕 (劇作家・演出家、劇団太陽族主宰)



1963年三重県鈴鹿市生まれ。1982年大阪芸術大学舞台芸術学科入学。同年「劇団大阪太陽族」(現:劇団太陽族)を旗揚げ。1994年「レ・ボリューション」で第1回OMS戯曲賞佳作、1997年「ここからは遠い国」で第4回OMS戯曲賞大賞を受賞。その他1997年大阪市さくやこの花賞、1999年兵庫県芸術奨励賞、2000年大阪府舞台芸術奨励賞などを受賞。各地でプロデュース公演・市民参加舞台の作・演出を手掛け、舞台芸術普及活動を広く展開している。

現在、伊丹市立演劇ホールアイホール劇場ディレクター、NPO法人大阪現代舞台芸術協会理事長、大阪芸術大学短期大学講師など。

## 多田 淳之介 (演出家・俳優、東京デスロック主宰)



1976年生まれ、千葉県柏市出身。演出家、俳優。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。青年団演出部。俳優の身体、観客、劇場空間を含めた、「現前＝現象」をフォーカスした演出が特徴。古典から現代劇、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。「演劇LOVE」を公言し、富士見市を中心に、他地域、教育機関でのアウトリーチ活動、創作活動も積極的にを行い、韓国、フランスでの公演、共同製作など国内外問わず活動する。2010年4月に演劇部門では国内歴代最年少で公共文化施設の芸術監督に就任。おもな演出作品に『ロミオとジュリエット』『その人を知らず』『あなた自身のためのレッスン』『LOVE』『再／生』など。

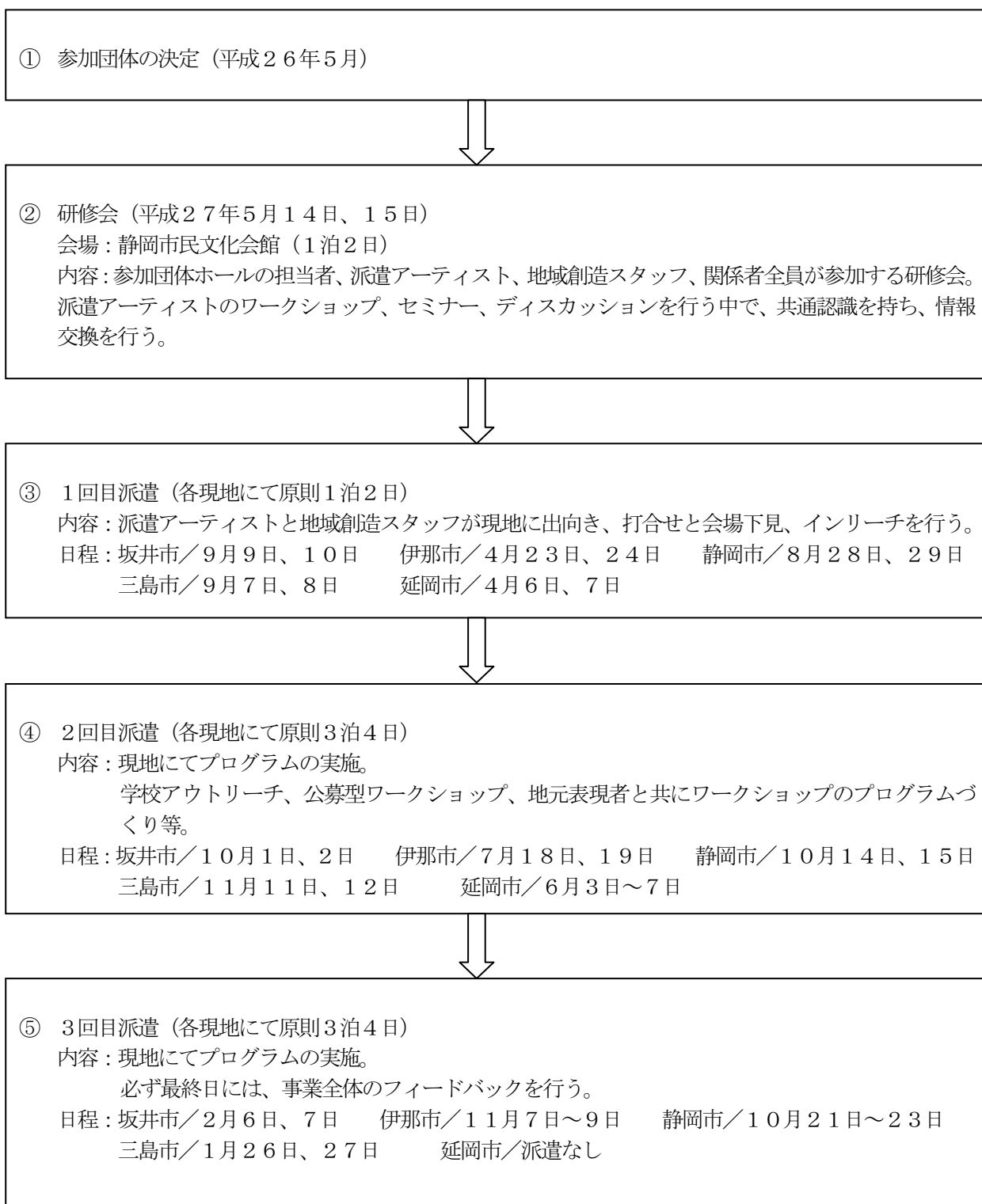
## 田上 豊 (劇作家・演出家、田上パル主宰)



1983年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。在学中に劇団「田上パル」を結成。方言を多用し、疾風怒濤の勢いと、遊び心満載の舞台は「体育会系演劇」とも評される。劇団外でも、高校生、大学生とのクリエイション、市民劇団や公共ホール事業への書き下ろしなど、プロアマ問わず、様々な形で活動を展開。演劇部の嘱託顧問や表現科目「演劇」の授業を持つなど、教育現場での経験も持つ。大学在学中にワークショップデザインに触れ、その後、創作型から体験型、育成講座まで幅広くワークショップを行う。現在、富士見市民文化会館キラリふじみアソシエイトアーティスト、青年団演出部所属。



# 事業の流れ



\* 2回目派遣が4日間連続のプログラム (原則5泊6日) の場合は、3回目派遣はありません。

# 全体研修会プログラム

	平成27年5月14日(木)	平成27年5月15日(金)
10:00		10:00～12:00 ディスカッション
11:00		前日の演劇ワークショップ及び公開セミナーについての振り返りとディスカッション。
12:00		12:00～13:00 昼食
13:00		13:00～15:00 企画内容の検討 各参加団体に分かれて、派遣アーティストとそれぞれの企画内容について協議。
14:00	14:00～15:30 オリエンテーション・挨拶・関係者紹介 事業の流れ、スケジュールの説明、各団体の企画発表	
15:00		15:00～15:15
	15:30～15:45 休憩	事務連絡
16:00	15:45～17:45 演劇ワークショップ 講師:岩崎正裕 参加ホール担当者、関係者が、演劇ワークショップを体験し、参加者全員でフィードバックを実施。	
17:00		
	17:45～18:00 休憩	
18:00	18:00～20:00 ※公開セミナー「高校生と演劇」 パネリスト:内藤裕敬、岩崎正裕、多田淳之介、田上豊 進行:津村卓	
19:00	パネリストの高校生と行った事業の事例紹介をしてもらいながら、高校演劇部対象のワークショップの目的についてディスカッションを実施。	
20:00	20:15～ 交流会(自由参加、会費制)	

※公開セミナーの参加者数 事業参加団体10名、静岡市関係者10名、その他12名 計32名

参加ホールプログラム一覧

●みくに文化未来館ホール（福井県 坂井市）

1回目派遣 9月9日(水)～10日(木)	2回目派遣 10月1日(木)～2日(金)				3回目派遣 2月6日(土)～7日(日)				
	午前	/		/		午前	高校演劇部対象のWS①	高校演劇部対象のWS③	/
		90分		90分			90分	90分	
	午後	三国西小学校でのアウトリーチ	加戸小学校でのアウトリーチ	午後	高校演劇部対象のWS②	高校演劇部対象のWS④		120分	
	90分		90分			120分	120分		
	夜間	一般対象のWS①	一般対象のWS②	夜間	/	フィードバック			
		120分		120分					

●長野県伊那文化会館（長野県 伊那市）

1回目派遣 4月23日(木)～24日(金)	2回目派遣 7月18日(土)～19日(日)				3回目派遣 11月7日(土)～9日(月)				
	午前	/		/		午前	/	/	フィードバック
		90分		90分			90分	90分	/
	午後	小学5年生対象の公募WS①	小学5年生対象の公募WS②	午後	高校演劇部対象のWS①	高校演劇部対象のWS②			
	90分		90分			90分	90分		
夜間	教員対象のWS①	教員対象のWS②	夜間	一般対象のWS①	一般対象のWS②				
		120分		120分			90分	90分	

●静岡市民文化会館（静岡県 静岡市）

1回目派遣 8月28日(金)～29日(土)	2回目派遣 10月14日(水)～15日(木)				3回目派遣 10月21日(水)～23日(金)			
	午前	安西小学校でのアウトリーチ①	安西小学校でのアウトリーチ②	午前	足久保小学校でのアウトリーチ①	/	フィードバック	/
		90分		90分				
	午後	/	/	午後	/	足久保小学校でのアウトリーチ②		
	90分		90分			90分		
夜間	ファシリテーター養成WS①	ファシリテーター養成WS②	夜間	ファシリテーター養成WS③	ファシリテーター養成WS④			
		120分		120分			120分	120分

●三島市民文化会館（静岡県 三島市）

1回目派遣 9月7日(月)～8日(火)	2回目派遣 11月11日(水)～12日(木)				3回目派遣 1月26日(火)～27日(水)			
	午前	山田小学校でのアウトリーチ①	山田小学校でのアウトリーチ②	午前	/	/	/	
		90分		90分				
	午後	/	/	午後	北上小学校でのアウトリーチ①	北上小学校でのアウトリーチ②		
	90分		90分			90分		
夜間	一般対象のWS①	一般対象のWS②	夜間	文化施設職員・教員へのWS①	文化施設職員・教員へのWS②			
		120分		120分			120分	120分
								フィードバック

●延岡総合文化センター（宮崎県 延岡市）

1回目派遣 4月6日(月)～7日(火)	2回目派遣 6月3日(水)～7日(日)					
	午前	上南方小学校でのアウトリーチ	上南方中学校でのアウトリーチ①	上南方中学校でのアウトリーチ②	/	フィードバック
		90分		90分		
	午後	延岡高校演劇部対象のWS	上南方中学校でのアウトリーチ③	午後	/	/
	120分		90分			
夜間	/	シニア劇団「笑銀座」対象のWS	一般対象のWS①	一般対象のWS②	/	
		120分		120分		120分

\*要綱の規定の時間や日数を超える企画の場合に発生する別途謝金や旅費等の経費は、参加団体の負担となる。



## みくに文化未来館（福井県坂井市）実施データ

実施団体	(公財) 坂井市文化振興事業団
実施ホール	みくに文化未来館
担当者	四折貴之
実施期間	1 回目派遣：平成27年9月8日（火）～9月10日（木） 2 回目派遣：平成27年9月30日（水）～10月2日（金） 3 回目派遣：平成28年2月5日（金）～2月7日（日）
アーティスト等	アーティスト：岩崎正裕 アシスタント：佐々木淳子（2、3回目派遣）、韓寿恵（3回目派遣）
<p>■ 1 回目派遣内容</p> <p>◎ 9月9日（水）三国加戸小学校打合せ 三国西小学校打合せ</p> <p>◎ 9月10日（木）福井県高校演劇連盟打合せ</p> <p>■ 2 回目派遣内容</p> <p>◎ 10月1日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13：50～15：30 三国西小学校アウトリーチ 対象：6年生27名 会場：三国西小学校多目的室</li> <li>・ 20：00～22：00 公募ワークショップ 対象：18歳以上13名 会場：みくに文化未来館ホール</li> </ul> <p>◎ 10月2日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13：50～15：30 三国加戸小学校アウトリーチ 対象：4年生28名 会場：三国加戸小学校多目的室</li> <li>・ 20：00～22：00 公募ワークショップ 対象：18歳以上10名 会場：みくに文化未来館ホール</li> </ul> <p>■ 3 回目派遣内容</p> <p>◎ 平成28年2月6日（土）10：30～15：00 一般対象公募ワークショップ 対象：福井県内高校演劇部22名 会場：みくに文化未来館ホール</p> <p>◎ 平成28年2月7日（日）10：30～15：00 一般対象公募ワークショップ 対象：福井県内高校演劇部21名 会場：みくに文化未来館ホール</p>	

## スケジュール

福井県坂井市／みくに文化未来館ホール

	1 回目派遣		2 回目派遣		3 回目派遣	
	9/9 (水)	9/10 (木)	10/1 (木)	10/2 (金)	2/6 (土)	2/7 (日)
9：00						
10：00					福井県高校演劇 WS	福井県高校演劇 WS
11：00		県高校演劇連盟 打合せ				
12：00						
13：00			三国西小学校 アウトリーチ	三国加戸小学校 アウトリーチ		
14：00	未来館 打合せ・下見					
15：00						
16：00	三国加戸小学校 打合せ・下見					フィードバック
17：00	三国西小学校 打合せ・下見					
18：00						
19：00						
20：00						
21：00			公募 WS	公募 WS		
22：00						

## プログラム詳細

### 三国西小学校アウトリーチ

10月1日（木）13：50～15：30（5限目～6限目）

演劇の手法を用いて、表現の仕方を体験するためのワークショップを行った。

手拍子リズムから始まり、一人の動きを皆で真似るなどして身体や雰囲気をはぐしていき、書かれた絵と言葉で伝えることで同じ絵を書かせたり、与えられたテーマの色を表現するために象徴となる「モノ」を表現するなどした。

当日、クラス内でちょっとした喧嘩があったと聞かされて心配していたが、そんなことはみじんも感じず、皆楽しそうにワークショップに参加していた。



### 三国加戸小学校アウトリーチ

10月2日（金）13：50～15：30（5限目～6限目）

演劇の手法を用いて、表現の仕方を体験するためのワークショップを行った。

手拍子リズムから始まり、一人の動きを皆で真似るなどして身体や雰囲気をはぐしていき、火に見立てたアシスタントに対し燃やしたいと思うものを投げたり、書かれた絵と言葉で伝えることで同じ絵を書かせたり、与えられたテーマの色を表現するために象徴となる「モノ」を表現するなどした。

担任の先生が若く、一緒にワークショップに参加するなどしており、生徒らと良好な関係が何えた。



### 公募ワークショップ

10月1日（木）20：00～22：00

／10月2日（金）20：00～22：00

演劇未経験者に演劇体験をしてもらうためのワークショップを行った。

小学校アウトリーチ同様、手拍子から始まり、タオルキャッチゲーム、仲間さがしゲームを行うなどして参加者同士のコミュニケーションを促し、一音詩ゲーム、漫才、言葉で絵を伝えるゲーム、谷川俊太郎の「二十億光年の孤独」の朗読、ぎや行のみの発声で演じる「桃太郎」などを行った。

公募ワークショップであったが、ほとんどが演劇経験有りの参加者であり、ワークショップを楽しみながらも表現の難しさを改めて感じているようであった。



### 福井県高校演劇部対象ワークショップ

2月6日（土）10：30～15：00

／2月7日（日）10：30～15：30

高校演劇部を対象に表現力の向上 高校生同士の交流等を目的に実施した。

小学校アウトリーチと公募ワークショップの内容に加え、ロミオとジュリエットの1シーンを題材にそれを要約、アレンジさせて短い芝居を作りあげた。未来館に併設してある図書館の職員や一般の人を招いて、ワークショップで行ったゲームや「ギヤ行」だけでセリフを言う即興劇、劇作したロミオとジュリエットを1つのプログラムとして上演した。岩崎さんや演劇部の顧問先生らの笑い声が絶えない上演であった。

即興で劇を創作した経験が、劇作能力を強めるきっかけになったと思う。



### ●この事業への参加動機

- ・福井県の演劇文化について公共ホールがどのような関わり方ができて、演劇文化が盛り上がるためにはどんな方法があるかを模索。
- ・福井県内の地元演劇団体表現者と高校演劇が交わる機会を設けるため。
- ・小学生に対して演劇手法によるアプローチはどのような成果があるかの模索。

### ●企画・実施において苦労した点

- ・地域創造の担当者の方にアウトリーチやワークショップ等の打合せの段取りを指導していただいたり、講師の岩崎氏からの適切なアドバイスのおかげで段取りの面で苦労することはありませんでした。ただ、公募ワークショップでは人を集めることに苦労しました。特に演劇未経験者を集めることが難しく、結果ほとんどの参加者が地元表現者になってしまいました。今後もこの事業を続けていくにあたり、このワークショップの魅力を伝えていくことは大きな課題と感じています。

### ●プログラムを実施した成果

今回の演劇アウトリーチ事業に参加してくれた小学校から、このようなワークショップを小学校の先生が体験させてみてはどうだろうかとの意見がありました。単なる受け入れ先としての参加では終わらずに、演劇手法によるコミュニケーションワークショップに大に関心を持ってもらえた結果だと思います。生徒たちが今回のワークショップで行ったゲームを休み時間にやっているとの声もあり、非常に興味深い結果になりました。

また、公募ワークショップ及び高校演劇ワークショップでアシスタントとして参加してくれた地元演劇団体の表現者らからも、今後このようなワークショップを行うならば是非参加したいし高校演劇とつながれる貴重な機会を大事にしていきたいとおっしゃっていただきました。あと、担当していただいた岩崎さんと地元表現者らの会話はとても興味深く、福井の演劇はもう少しどうにかならないという漠然とした思いについて、一つの選択肢をもらいました。今回のリージョナルシアター事業は非常に有意義な手応えのあるものとなりました。

### ●今後の展望

今回の事業で、みくに文化未来館発信のアウトリーチ、ワークショップに関して各団体に認知していただけたかと思います。また、この事業で高校演劇部顧問の先生方、小学校の先生方とみくに文化未来館のつながりができたと思います。この縁を大事にし、これからこの事業の発展に役立てたいと思います。

毎年様々な演劇関係者の方に来ていただき、ワークショップや小学校等にアウトリーチを行っていくことで福井県内の演劇文化の発展・振興に寄与すること、また戯曲ワークショップなどを行うことで戯曲を書ける人材を育てることで福井の演劇文化を強めるように、今後この事業を発展させていきたいと思っています。

地元の演劇文化が県内外から注目されるようなそんな事業展開をしていきたいと考えています。

### 「ホールのやる気がアーティストのやる気になる」

岩崎 正裕

#### 地域の気質とワークショップの相性

福井県北部に位置する坂井市は、4つの町が合併して2000年代に入ってから出来た人口9万人程の新設市である。本年度の派遣となった「みくに文化未来館」は図書館を併設する多目的ホールである。日本海側に臨むこの地域は日本有数の景勝地「東尋坊」があることで知られる。この文化施設を基軸として小学校アウトリーチ、一般公募型ワークショップ、高校演劇部対象ワークショップを行った。下見に続いての派遣は10月初旬、台風の影響と重なり、列車の運休も予想されることから一日早い現地入りで小学校アウトリーチに備えた。幸い現地では台風の影響も大きくなく、三国西小学校の元気な6年生27名と出会うことが出来た。これまで沢山の地域の小学校で、多くの子どもたちと向き合ってみると、その地域の気質のようなものを感じることもあるのだが、三国の小学生たちは積極的で活発、アイデアもどんどん出て発展性のあるワークショップとなった。夜は館に戻り、一般公募型のワークショップに取り組んだ。参加者は15名。演劇人口の多い都市部と違い、人口9万人の市ゆえに、未経験の方が多いのではないかと想像していたが、その予想は外れた。館を活動の場とした劇団がすでにあり、コミュニティが形成されていた。今回の事業担当者、四折さんも劇団に参加していて、そのことが有効に機能したと云える。個性豊かな経験者と、初めて演劇ワークショップを体験する人たちが融合して、実りの多い時間となった。

#### アウトリーチ事業の継続へ向けて

翌日は三国加戸小学校へのアウトリーチ。4年生28名と、前日と同じプログラムに取り組んだ。私見であるが3年生から6年生までは同じプログラムで問題が生じないように思う。ワークショップはファシリテーターと参加者の間に双方向性が担保されて進行するので、参加者自らが発見するアイデアに若干の年齢差が生じる程度のことである。4年生は4年生らしく、時には笑い、時には深く話し合い、真摯にプログラムに取り組んだ。その夜の一般公募型ワークショップも大いに盛り上がり、その流れで交流会となった。すっかり打ち解けて話す内に、「みくに文化未来館」の機能が、次年度以降、新しく建設される文化施設に統合されると聞いた。そのために、今後のアウトリーチを含む事業展開は検討課題であると。施設の統合で事業見直しが成されることは致し方ないが、鑑賞事業中心では今回のリージョナルシアター事業が無駄になってしまう。文化事業全体に良い方針がもたらされることを祈りたい。この夜の交流会で、何名かの参加者が次の高校演劇部対象ワークショップのアシスタントをやってみたいとの希望を申し出てくれた。朗報であった。

#### 地域の未来に貢献する

年明けて2月、演劇部に所属する25名の高校生が劇場にやってきた。2日間のワークショップ、アシスタント2名は地元劇団の俳優である。ワークショップの始まりでは、他校の生徒と遠慮がちに接する高校生たちであったが、一日目の終わり頃にはその垣根は完全になくなった。2日目にはプログラムを繋げて発表会を催すことを約束し別れた。発表会に際して、音響・照明などを実際に操作してみたいという生徒も現れ、劇場スタッフがそれに対応すべく仕込みをしてくれたのも感動



---

的だった。我々アーティストはその対応に館の「やる気」を見るのである。その夜更け、雪が降り始め、翌日には20cm積もった。西日本ならこの日の開催は見送られるところだが、さすがは雪に慣れた地域である。朝10時30分に皆が揃って、発表会に向けた作業が始まり、ギリギリまで粘って発表会を終えた。その達成感もさることながら、互いに知らない生徒同士の交流の場となったのが何よりだったのではないだろうか。フィードバックの席で地元俳優たちは、今日出会った高校生たちが、卒業後もこの地に残って演劇活動を続けてくれればうれしい、と口にした。そのための環境整備は公共の仕事である。担当者四折さんによれば、館の機能は統合されるが、次年度以降も育成事業は継続される方針が出されたとのことである。我々アーティストは、台風が来ようが雪が降ろうが、どこまでも行く。地域の未来に貢献できるなら、それに勝る喜びはない。改めて「みくに文化未来館」の名前に託された使命を思った。

## 長野県伊那文化会館（長野県伊那市） 実施データ

実施団体	(一財) 長野県文化振興事業団
実施ホール	長野県伊那文化会館
担当者	春日あかね 辰ノ口ゆり
実施期間	1 回目派遣：平成27年4月23日（木）～4月24日（金） 2 回目派遣：平成27年7月18日（土）～7月19日（日） 3 回目派遣：平成27年11月7日（土）～11月8日（日）
アーティスト等	アーティスト：田上豊 アシスタント：長野海（2回目派遣）、大池容子（3回目派遣）
<p>■ 1 回目派遣内容</p> <p>4月23日（木）伊那市内見学（中央アルプス、南アルプスに囲まれた伊那谷のパノラマ、商店街等地域の状況調査など） まつり工房見学（伊那で和太鼓の指導・製造・販売を通し地域発の日本文化を育てる活動団体。代表北原氏案内） 会館にて会場下見、打合せ（2、3回目派遣の実施内容の確認、意見交換、スケジュール、広報など）</p> <p>4月24日（金）打合せ（前日の実施内容の振り返りと整理、検討事項） 中尾歌舞伎座見学、伊那市立高遠町歴史博物館見学、伊那町商店街状況調査</p> <p>■ 2 回目派遣内容</p> <p>7月18日（土）13：00～14：30 小学5年生対象公募 WS ①参加者22名／ 17：00～19：00 教職員対象公募 WS ①参加者8名 19日（日）13：00～14：30 小学5年生対象公募 WS ②参加者24名／ 17：00～19：00 教職員対象公募 WS ②参加者8名</p> <p>※小学5年生対象公募 WS、教職員対象公募 WS 共に2日間で完結するプログラム ※ 場所：会館小ホール</p> <p>■ 3 回目派遣内容</p> <p>11月7日（土）13：00～14：30 高校演劇部対象公募 WS ①参加者9名／ 18：00～19：30 一般対象公募 WS ①参加者18名 8日（日）13：00～15：00 高校演劇部対象公募 WS ②参加者10名／ 18：00～20：00 一般対象公募 WS ②参加者17名</p> <p>※高校演劇部対象公募 WS、一般対象公募 WS 共に2日間で完結するプログラム ※ 場所：会館小ホール</p>	

## スケジュール

長野県伊那市／長野県伊那文化会館

	1 回目派遣		2 回目派遣		3 回目派遣		
	4 / 23 (木)	4 / 24 (金)	7 / 18 (土)	7 / 19 (日)	11 / 7 (土)	11 / 8 (日)	11 / 9 (月)
9：00							
10：00		打合せ (前日まとめ全体)					フィードバック
11：00							
12：00		昼食					
13：00	伊那市内視察 まつり工房見学	中尾歌舞伎座見学 伊那市立高遠町 歴史博物館見学 市内状況調査	小学5年生 公募 WS ① 13：00～14：30	小学5年生 公募 WS ② 13：00～14：30	高校演劇部 公募 WS ① 13：00～14：30	高校演劇部 公募 WS ② 13：00～15：00	
14：00							
15：00							
16：00	会館下見 打合せ						
17：00			教職員対象公募 WS ① 17：00～19：00	教職員対象公募 WS ② 17：00～19：00			
18：00	懇親会				一般公募 WS ① 18：00～19：30	一般公募② 18：00～20：00	
19：00				茶話会			
20：00						茶話会	
21：00							

## プログラム詳細

### 小学5年生対象公募ワークショップ

7月18（土）、19日（日）13：00～14：30

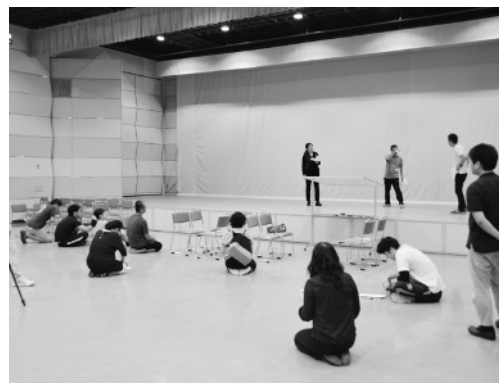
「演じる楽しさ」「表現すること」「遊びながら身体を動かす」をテーマに演劇を身近に感じてもらい、自己表現力やコミュニケーション力、想像力を育む狙いで実施した。田上講師が出した「助け合う」「伝える」「演じ合う」をキーワードにシアターゲームから始まり、最後は台詞の一部が空白の台本に穴埋めの言葉を考えた後、別の組が仕上げた台本を使い発表会を行った。演劇を通しアイデアを出し合って創作する作業を、参加者全員で工夫し実施した。参加者からは、「劇って楽しい」との声が多数で、楽しい出会いの機会ができたのではと感じている。また見学していた先生からは「生徒の普段と違う一面を見る事ができた」「楽しく自主的にやっていた」と驚きと発見の声があった。



### 教職員対象公募ワークショップ

7月18日（土）、19日（日）17：00～19：00

「先生からは生徒との関わりの中で『子どもたちにどう声をかけていけば良いかわからない』『伝え方がわからない』という声がある。」と田上講師に相談したところ、「では小5対象ワークショップと同じプログラムをやってみてはどうか、頭で考えるよりも体験してみる方が手っ取り早い」という提案を受け実施した。参加動機としては教育現場に活かせる要素やヒントを目的とした先生がほとんどだった。ワークショップ体験後には「まずは自分が楽しむことが大切な事であり、教えることの本質が見えた」「凝り固まった常識を打ち破り演劇は自由に発想してこそ面白い」など今までに経験したことのない様々な発見があったようである。参加者に多くの感動を持ち帰ってもらうことができたと感じている。また、館職員もワークショップに参加したことで交流ができ、参加者の率直な感想をもらうことができた。



## プログラム詳細

### 高校演劇部対象公募ワークショップ

11月7日（土）13：00～14：30

／8日（日）13：00～15：00

第一線で活躍しているプロのアーティストと触れ合い、創作を楽しんでもらおうと企画した。「高校の垣根を越えて集団創作の醍醐味を知る」をテーマに実施した。3校の演劇部の生徒が普段の演劇の感覚と異なる体験をした。演劇ワークショップの参加がはじめてという生徒もいたが田上講師、アシスタントの大池さんがなじみやすい雰囲気をつくってくれたことで、高校生同士交流が生まれ集団創作を楽しむことができた。田上講師から出された「つまらない劇を創る」という課題には「難しかった」「日常の“つまらないもの”に日頃から注目し幅をひろげることも大切だと感じた」との意見が出された。参加者が新しい発想と出会い、それに対応する新しい自己の能力などが見つけられたのではないかと感じている。



### 一般対象公募ワークショップ

11月7日（土）18：00～19：30

／8日（日）18：00～20：00

演劇人口の裾野を広げたいという目的で18歳以上を対象に演劇経験・未経験を問わず「演劇の入り口」「演劇って？楽しみながら体験」をテーマに演劇に触れてみるという入門編を実施した。「前から演劇に興味があった」「第一線で活躍しているプロによるワークショップを体験できる良い機会」等参加動機は様々であった。

参加者は初めは戸惑いながらも徐々に緊張が解け自己を表現し周りとのコミュニケーションをとりながら他者との関わりを楽しんでいた。ワークショップ体験後には「演劇のかたいイメージがとれた」「新しい発見がたくさんあり、人との関わりが楽しかった」などの声があった。また、「演劇にとらわれず普段の日常や、コミュニケーションの中でも活かせる」との声もあり、演劇を身近に感じてもらえることができたのではないかと感じている。館職員もワークショップに参加したことで地域の方とのコミュニケーションをとり、意見交換をすることができた。



### ●この事業への参加動機

当館では平成25年度より「伊那谷演劇研究所」を立ち上げました。県立文化会館として演劇事業をどのように行っていくか、地域でどのような活動が必要とされているのかを調査、研究してきました。今後演劇事業を取り組む上で、今回のリージョナルシアター事業が大きな原動力になるのではないかと期待するとともに、当館スタッフの演劇・ワークショップに対する企画能力向上のために活用したいと思い参加いたしました。

### ●企画・実施において苦労した点

演劇ワークショップは初経験だったこともあり、日の設定から始まり時間設定、対象者、目的、広報などすべてにおいて悩むところでした。そこで、学校・芸術団体などへ出向き、どのようなワークショップが求められているのか、何が有効的なのかをヒアリングしました。

演劇スキルの向上を目的としていない事業趣旨をどのように理解し、興味を持ってもらうかが課題でした。学校などへ出向き案内・説明し参加者を募ることとしましたが、高校演劇部対象では行事日程や部員数減少などで参加数、参加校が想定していたより少なく、対象者が絞られる場合は事前調査の重要性を強く感じました。

### ●プログラムを実施した成果

今回4種類の対象ワークショップを実施したことで、今後の伊那谷演劇研究所として進むべき道筋が見えてきました。参加者からは来年度も実施してほしいとの声が多く手応えを感じました。地域の人々との交流をとおして、協力者、土壌があるということなどを検証することができました。今回の出会いを大切に、今後も繋いでいきネットワークを構築していきたいと思えます。

田上講師をはじめ地域創造の皆さんから様々な角度から丁寧にアドバイスや提案、相談に乗っていただき、準備・実施過程で気付きなど熟慮するべきことがわかり、達成することができました。

### ●今後の展望

演劇・アートの出会いを通じて会館を身近に感じてもらうため、会館に行ったら楽しいことをやっている、おもしろい人に会えるというところから取り組みたいと思えました。

すべてのプログラムで「またこのようなワークショップをやってほしい」という声が多いため、28年度も引き続き田上講師にワークショップの開催をお願いしております。

鑑賞事業も重要であるため、小劇場で活躍している劇団を招聘し鑑賞事業も同時に進めていきたいと思えます。

### 「ミッションを達成する手段としてのアウトリーチ」

田上 豊

#### アウトリーチ事業を進めるための覚悟

現在、地域活性や芸術体験などの鑑賞事業以外の劇場の取り組みは、様々な地域で見つめ直され、各劇場の事業展開の中でなくてはならないものになっている。伊那文化会館においても同様に、新たなアウトリーチ事業を展開すべく地域創造のリージョナルシアターに手を挙げたとのことだった。ところが、伊那文化会館の担当者は、出会い頭に「私は、こういった事業のことをいろいろとまだ分かっていませんので、勉強させてほしい」と申し入れて来た。アーティストサイドからすれば、こういった担当者と協働作業を行うことは、嬉しさが半分、不安が半分、というのが正直なところだ。嬉しさは、アウトリーチ事業に参画する人材が増えることを願う期待からくるもの。一人でも全国の劇場にアウトリーチ活動に造詣が深い人材が増えることを願っている。一方の不安とは、反対にアウトリーチに対して造詣も愛もない担当者が増えることだ。アーティストが、アウトリーチ先で苦勞する要因は、「担当者」次第で変わってくるのも事実だ。どんな地域の公共劇場にも「企画」、「コーディネート」、「実施」において専門性を持った「アウトリーチ職人」のさらなる出現を心待ちにしている。

#### 「公共の場」とするためのプログラム作り

さて、一からスタートさせた伊那文化会館の担当者は、各方面との粘り強い協議を重ね、最終的に以下の4つのワークショップ企画を立案した。

「小学5年生向けワークショップ」／「教員（一般）向けワークショップ」／「高校演劇向けワークショップ」／「一般向け（演劇関係）ワークショップ」

ここで「初めてアウトリーチの企画をする」ということの難しさについて考えたい。極端に言えば、アウトリーチほど理解がないと取り扱いにくいものはない。また、企画側として、アウトリーチの成功体験がないことは、企画を対外的に告知や説明する際に困難さを生み出すだろう。面白みや醍醐味を掴めぬまま、企画を促される者の孤独を思う。しかしながら、誰もが通る道であると考えている。アウトリーチの企画には、意図と戦略が必要である。「なにをすれば正しいのか？」ではなく、「なにをしたいのか」といった思考性を元に、劇場がアウトリーチを行う上での「ミッション」をどのように定め、掲げるのが大切になる。

伊那文化会館の場合は、会館として、鑑賞事業以外にも様々な市民参加の事業を展開していることを認知して欲しい、また、劇場自体をもっと開けた「公共の場」としたいという願いがあった。その上での新企画がリージョナルであり、その企画の中で、上記の4つのワークショップが提案されたわけである。

実際に実施してみたところ、多様な層の参加者と劇場との出会いの場となり、双方の有意義な意見交換も行われた。何よりも、地域に「芸術を欲する」潜在的な人達が存在することが証明され、劇場側もさらなるアウトリーチ企画のブラッシュアップを意欲的に行うきっかけとなったように感

---

じている。伊那文化会館が掲げたミッションを念頭に振り返れば、企画された四つのワークショップの実施は、実りの多いものであった。

### ホールのためにアウトリーチができることを考える

ただ、未来における発展を考えるならば、さらに柔軟に考えて欲しい。劇場の掲げたミッションは、「ひらけた劇場」であることだ。さらに言えば、伊那文化会館は、県立劇場である。その特性も踏まえ広く考えれば、演劇やダンス、音楽など、様々な舞台芸術のための建物である。今後は、演劇だけに突破口を見出さず、それぞれのワークショップの企画や、コラボ企画など、アウトリーチにおいても工夫の余地が、大いに残っている。

工夫の余地とは、言い換えれば「伸びしろ」である。課題が明確になった際に、次にどう生かしていくのかが、アウトリーチを担当する者の腕の見せ所だと考えている。時代の流れとはいえ、アウトリーチの企画を「劇場のミッションのための楽しみ」として捉えるか、「重荷」として捉えるのか、この違いは、実に大きい。伊那文化会館の担当者が、前者となってくれること切に願っている。そのためにアーティストとして自分に出来ることがあれば、なんでも協力したい。

## 静岡市民文化会館（静岡県静岡市） 実施データ

実施団体	静岡市文化振興財団共同事業体
実施ホール	静岡市民文化会館
担当者	良井雅也・鈴木芳徳・太田志保
実施期間	1 回目派遣：平成27年 8月28日（金）～ 8月29日（土） 2 回目派遣：平成27年10月14日（水）～10月15日（木） 3 回目派遣：平成27年10月21日（水）～10月22日（木）
アーティスト等	アーティスト：田上豊 アシスタント：有門正太郎、村井まどか、大池容子
<p>■ 1 回目派遣内容</p> <p>8月28日（金）打合せ 静岡市立安西小学校打ち合せ 静岡市立足久保小学校打ち合せ ファシリテーター養成講座 意見交換会</p> <p>■ 2 回目派遣内容</p> <p>10月14日（水） 10：35～12：15 静岡市立安西小学校アウトリーチ①（対象：6年2組30名） 19：00～21：00 ファシリテーター養成講座①（対象：高校生以上の演劇経験者16名） 10月15日（木） 10：35～12：15 静岡市立安西小学校アウトリーチ②（対象：6年1組29名） 19：00～21：00 ファシリテーター養成講座②（対象：高校生以上の演劇経験者17名）</p> <p>■ 3 回目派遣内容</p> <p>10月14日（水） 9：30～11：10 静岡市立足久保小学校アウトリーチ①（対象：4年1組22名） 19：00～21：00 ファシリテーター養成講座③（対象：高校生以上の演劇経験者19名） 10月15日（木） 13：40～15：20 静岡市立安西小学校アウトリーチ②（対象：4年2組23名） 19：00～21：00 ファシリテーター養成講座④（対象：高校生以上の演劇経験者18名）</p>	

## スケジュール

静岡県静岡市／静岡市民文化会館

	1 回目派遣		2 回目派遣		3 回目派遣		
	8/28（金）	8/29（土）	10/14（水）	10/15（木）	10/21（水）	10/22（木）	10/23（金）
9：00							
10：00		意見交換会 フィードバック	安西小6年2組 10：35～12：15	安西小6年2組 10：35～12：15	足久保小4年1組 9：30～11：10		フィードバック
11：00							
12：00							
13：00	ホール打合せ					足久保小4年2組 13：40～15：20	
14：00							
15：00	安西小打合せ						
16：00							
17：00	足久保小打合せ						
18：00							
19：00			養成講座① 19：00～21：00	養成講座② 19：00～21：00	養成講座③ 19：00～21：00	養成講座④ 19：00～21：00	
20：00	意見交換会						
21：00							



## プログラム詳細

### 静岡市立安西小学校アウトリーチ

10月14日（水）・15日（木）

10：35～12：15（※両日共通）

演劇を「発見のプロセス」ととらえ、演者個々のカラーを互いに組み合わせ、小作品を仕立てる趣向のプログラムを実施した。学校側は、6年生の総合的な学習「キャリア教育（職業教育）」の一環として受け入れた。

講師の田上豊氏は、演出家としての目線で児童らの工夫や独創を細やかに捉え、評価した。教員からは「児童のすべての行為から評価を引き出してくれた。個々の新たな面を発見するカラ破りの授業だ」と、驚きと感謝の声が聞かれた。



### 静岡市立足久保学校アウトリーチ

10月20日（水）9：30～11：10

／21日（木）13：40～15：20

安西小と同じプログラムを実施。同校は4年生の「学級活動」の授業として受け入れた。

作品には児童らの自由な発想と工夫が盛り込まれ、田上氏の細やかな観察と評価ぶりと合わせて、教員から「演技も声の出し方も、普段とは別人格のよう。今後の成長が楽しみ」などと好意的な感想が聞かれた。事前の打ち合わせの時点で、教員側が具体的な内容をイメージしづらかった点は課題とされた。



### ファシリテーター養成講座①②

10月14日（水）・15日（木）

19：00～21：00（※両日共通）

田上氏が学校で提供したプログラムを導入とし、ワークショップを企画する際の心構えについて体験的に深める機会とした。「教えるだけの内容になってはダメ。何が好きで演劇に取り組んでいるのか、まず自分の“世界観”を確認し、共有しなくては」という指摘は、当館が今後取り組む表現者支援のあり方にとっても重要な指針になった。静岡の演劇活動家ら19人が参加した。



### ファシリテーター養成講座③④

10月14日（水）・15日（木）

19：00～21：00（※両日共通）

参加者らがチームに分かれ、設定された条件下でプログラム創作に臨んだ。短期間の取り組みだったが、各自で課題を持ち帰るなど、受講者の前向きな姿勢が随所に見られた。

最終的なデモ（発表）に対し、田上氏やアシスタントから厳しい指摘が飛んだが、各自真摯に受けとめる様子が見られ、地域の演劇人同士が手を携える、よい緊張感の中で講座を終えることができた。



### ●この事業への参加動機

静岡市民文化会館では、これまで市民参加型の舞台公演や各種ワークショップ等を企画・実施するなどして、舞台芸術分野の普及啓発に取り組んできた。いわゆる「劇場法」の制定など、公共ホールに期待される役割が大きく変化しつつある中、当館も教育・福祉・観光など他分野の事業主体をはじめ、同様の取り組みを進める他地域の公共ホール等とのネットワークを築くことで、新たな事業の開拓と、情報交換の深化を進めることを欲している。今回の事業は、全国各地のホール、また静岡一円の演劇人らと足並みを揃えて企画に取り組むことができる好機ととらえて参加した。また活動を通じて、対象となる静岡の学校の教員や、地域の演劇人との人脈が強化されることにも期待した。

### ●企画・実施において苦労した点

ホールからの一過性の活動提供とならないよう、また特にファシリテーター養成講座の対象となる演劇人には、アーティストが自身の活動を振り返り、深めていくための機会として、活動支援の意図を持った事業であることを理解していただく点に留意した。地元の演劇協会や当館で活動経験のある演劇人と事前に協議を重ね、今後の各人の活動を見据え、ホールとアーティストが演劇の振興・普及の目的を共有し、互いに高め合う2人3脚の姿勢で取り組めるよう配慮した。

学校へのアウトリーチでは、プログラムの内容やその効果などについて、教員側に具体性を持って伝えることに苦労し、結果として受け入れ校の選定に苦労する（プログラムの受け入れ希望校がなかなか現れない）ことになった。結果的に個々の知人を当たるなどしてようやく受け入れ校を見出すことができた。一言に「演劇ワークショップ」といってもイメージは茫漠としてしまい、講師となるアーティストによっても目的意識と手法は大きく異なると考えられる。「何をどう提供するためのプログラムなのか」、ホールもこの点をよく理解し、受け入れ側のメリットとの組み合わせを工夫することが、コーディネートの重要なポイントであると感じた。

### ●プログラムを実施した成果

小学校2校を対象としたアウトリーチでは、「アーティストの視点からみた児童の新たな一面」に教員らが驚く様子が印象的だった。事後の振り返りでは、田上氏の言う「演劇特有の人の見方、読み取り方」と、学校の日常に用いられる評価軸との間に何がしかの差異があり、そこに、児童らの自信の獲得につながる重要なポイントが隠れていることを、教員らを含めスタッフ全員で共有することができた。「演劇」の手法によるワークショップの、ひとつの良質な展開例を実見できたことは、今後の事業企画に向けた当館の大きな資産になった。

ファシリテーター養成講座は、時間的な制約から、「プログラムの立案」に留まり、創作したプログラムを実践するところまで到達できなかった。しかし、ワークショップを企画・運営する際に最も重要なポイントとして「アーティストの世界観の共有」という点を強く印象付けていただくことができ、ホールスタッフ、また静岡の演劇人らにとって大変刺激的な経験になった。実施後のアンケートにも、同じ目的意識を持った活動の継続を希望する声を多くいただき、結果的に事後のサークル的な活動へと発展している。「演劇人個々の活動意欲を重視し、それを軸に市民向けの演劇普及を図る」というプロセスによって、ホールと地元アーティストらの間に新たな連帯感が育成されつつある。

### ●今後の展望

上記の派生活動は、月2回程度、定期的な活動を続けている。2016年3月には、市内の生涯学習センターで初めてプログラムの実践も行った。口コミなどによって新たな参加者も加わっている。今後さらにプログラムを開拓、進化させつつ、アーティストらの活動意欲を一層高め、学校へのアウトリーチ等の普及活動を、静岡の演劇人の力で推進していくイメージを掲げて支援を続けたい。

### 「演劇ワークショップに関する地域の人材育成について」

田上 豊

#### 目的意識が明確なプログラム

静岡市民文化会館では、夜間の部において合計8時間のファシリテーター養成講座を行った。劇場の意向として、地域の中核を担うアーティストと共にアウトリーチの事業を展開、発展させたいというもので、こういった目的意識をもって新しい共同事業に着手しようとする劇場と出会えると勇気づけられる。どんな形であれ、地域活性化のために公共劇場とアーティストがタッグを組むのは、素晴らしいことだ。今後のことを思えば、特に教育機関のような場所にアウトリーチに出向く場合、劇場が「コーディネート」の部分、アーティストが「実施」の部分それぞれ担保できるような関係性を築くことが理想であるが、既にそういった共同事業を行っている公共劇場も数多く存在するので、静岡市民文化会館の今後の飛躍を切に願っている。

#### 垣根を越えた関係性をつくる

最近、いろいろな場所でファシリテーター養成講座を担当させてもらっているが、つくづく興味深く感じるのは、「養成講座」という場所が、劇場とアーティスト、またアーティスト同士の新しい出会いの場となっていることだ。養成講座の内容はさておき、その時間自体がどのような形であれ豊かなものであれば、同じような向上心や目的意識をもっている以上、新しいコミュニティとして成立する場合が多い。静岡市民文化会館でもアウトリーチを探求する集団として、劇場職員やアーティストという垣根を越えた新しいコミュニティが誕生したように思う。

ここでポイントなのは、「垣根をこえた関係性」という部分である。全国それぞれの地域では、それぞれの演劇の歴史があり、さまざまな経験を持った人達が存在している。こういった背景の中でとりわけアウトリーチの共同事業でまとめあげるのは、劇場職員としても難儀するところかもしれない。しかし、アウトリーチの醍醐味は、実施した活動がうまくいけば、成果を全体で共有し喜び合えるところにある。どんな地域においても垣根を越えた関係性があれば、この喜びの度合いに温度差が出ることなく、また喜びだけではなく、ブラッシュアップ作業も濃密に行えるようになると思っている。つまりこれは、普段、劇場もアーティストも行っている演劇活動の醍醐味と大差ない。

#### ホールが出会いの場となる

人と人が出会い、集まり、なにかを作る。これは、パフォーマンスアートの大原則である。あとは、これをどこで発表（実施）するのかということが大事な部分。今回の例で言えば、養成講座で生み出されたワークショップのプログラムをいつどこで実施させるのかという「機会」づくり。この機会創出が劇場のミッションであり、アーティスト側からもコーディネーターとしての手腕を見られる部分である。共同作業とはいえ事業であることには変わりない。アーティストも劇場も、双方にそれぞれの役割と緊張感が必要であり、そのことに対しお互いの認識を高めておくことで、協働しつつも完成度の高い事業展開が可能となる。

地域におけるアウトリーチの養成講座は、ワークショップのノウハウを蓄積するための時間であ

---

る一方、「今後アウトリーチ事業を共に行っていくための組織」として、垣根を越えた新しいコミュニティを形成しやすい。こういった養成講座を劇場が行うことは、言い換えれば、新しい出会いとコミュニティの場を提供していることと同義なのである。地域の状態にもよるが、静岡市民文化会館としては、出会いの場こそが新たにアウトリーチ事業をスタートさせる上でなによりも必要不可欠な要素だったと考えている。実に魅力的な人材に溢れていたし、モチベーションも高かった。結局の所、あとは「場」さえあれば、集うべくして集うようになっていたのではないだろうか。

ただし、まだ始まったばかりである。ここから先の事業展開に期待したい。風の噂でもいいから「静岡ではあれ以来、アウトリーチの活動が活発化している」といった話を耳にしたい。それさえあれば、命を燃やすように担当した四日間の養成講座も報われるというものである。

## 三島市民文化会館（静岡県三島市） 実施データ

実施団体	三島市教育委員会
実施ホール	三島市民文化会館
担当者	石井章代、高橋健
実施期間	1回目派遣：平成27年9月7日（月）～9月8日（火） 2回目派遣：平成27年11月10日（火）～11月13日（金） 3回目派遣：平成28年1月26日（火）～1月28日（木）
アーティスト等	アーティスト：内藤裕敬 アシスタント：2回目派遣／加藤登美子 3回目派遣／阪上洋光
<p>■ 1回目派遣内容</p> <p>9月7日（月）市民文化会館下見・打合せ 山田小学校下見・打合せ</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>11月11日（水）・12日（木） 9：25～11：15 山田小学校アウトリーチ 対象：11日／4年1組34名、12日／4年2組34名 会場：音楽室 19：00～21：00 一般対象（主に地元表現者）公募WS 対象：高校生以上 延べ52名 会場：市民文化会館リハーサル室</p> <p>■ 3回目派遣内容</p> <p>1月26日（火）・27日（水） 26日（火）：13：05～14：40 北上小学校アウトリーチ 対象：4年1組27名 会場：音楽室 27日（水）：13：30～15：10 北上小学校アウトリーチ 対象：4年2組27名 会場：音楽室</p> <p>（26日・27日）19：00～21：00 一般対象（主に文化施設職員・教員等）公募WS 対象：高校生以上 延べ33名 会場：市民文化会館リハーサル室</p>	

## スケジュール

静岡県三島市／三島市民文化会館

	1回目派遣	2回目派遣		3回目派遣	
	9/7（月）	11/11（水）	11/12（木）	1/26（火）	1/27（水）
9：00		山田小アウトリーチ① 4年1組 9：25～11：15	山田小アウトリーチ② 4年2組 9：25～11：15		
10：00					
11：00					
12：00					
13：00				北上小アウトリーチ① 4年1組 13：05～14：40	北上小アウトリーチ② 4年2組 13：30～15：10
14：00	市民文化会館 下見・打合せ				
15：00					
16：00		北上小下見・打合せ			
17：00	山田小下見・打合せ				
18：00					
19：00		一般対象公募WS 地元表現者① 19：00～21：00	一般対象公募WS 地元表現者② 19：00～21：00	一般対象公募WS 文化施設職員・教員等① 19：00～21：00	一般対象公募WS 文化施設職員・教員等② 19：00～21：00
20：00					
21：00					フィードバック
22：00					

## プログラム詳細

### 山田小学校アウトリーチ

11月11日（水）・12日（木） 9：25～11：15

### 北上小学校アウトリーチ

1月26日（火） 13：05～14：40

／27日（水） 13：30～15：10

プロの芸術家による、通常の学校教育の枠組みとは異なる教科横断的な授業を通じて、子ども達の想像力やコミュニケーション力を育むことをねらいとした。

内藤氏は、想像力を「見えないものを見る力」という言葉に置き換え、絵画と音楽を使い、子ども達にアプローチしていった。内藤氏の言葉がけによってフラットで互いを認め合う雰囲気が自然と作られ、子ども達は自分の感じたことを率直に表わすこと、他人の感想を聞くことを通して、様々な感じ方があり答えは一つでないこと、違うことが面白いことなどを体感していた。休み時間になると内藤氏の周りに集う子ども達の姿が微笑ましかった。

プログラムが進むにつれ、子ども達の集中力の高まりが見て取れた。最後に聴いた音楽のイメージを絵に表わす際は、子ども達が熱中し「もっと描きたい」という声も上がっていた。

授業後も、子ども達の絵を教室や廊下に貼り出して共有する機会が作られ、このプログラムと学校教育との親和性を感じた。



### 一般（主に地元表現者）対象ワークショップ

11月11日（水）・12日（木） 19：00～21：00

来年度35回を数える市民演劇祭の今後の展開を見据え、主に地元の演劇人を対象としたところ、高校生から70代まで多くの方が2日間通してご参加くださり、関心の高さを実感した。小学校でのプログラムを基本としながら、参加者の意向で俳優スキルの基礎を学ぶことを切り口に「身体は思い通りに動くのか」「素晴らしい作品とは」「芸術作品で遊んでみる」と、実技と対話を織り交ぜて進められた。このようなワークショップを継続していったときの可能性を感じた。



### 一般（主に文化施設職員・教員等）対象ワークショップ

1月26日（火）・27日（水） 19：00～21：00

市内・近隣で文化芸術に携わる方々に演劇の魅力・可能性を体感し日頃の業務に活かしていただくと共に、交流の場としたいと考えた。内藤氏の実感・実体験を伴って語られる「芸術」のあり様は、芸術に関わる私たち自身がどう芸術を捉えていくか、どう伝えていくかといった根本的な課題に一つの指針を与えてくれるものとなった。基本は同じ内容ながら、体験に留まらない深い学びの場となり、このプログラムと内藤氏に感銘を受けた。



### ●この事業への参加動機

- ・三島市文化振興基本条例に謳う基本的施策のうち、現段階で特に重要と考えている「子どもの多様な文化に親しむ機会の提供」「人材の育成」に、本事業は直結するものだと考えた。
- ・教育委員会及び市民文化会館の指定管理者にとって、実施することで実践的な経験を積みノウハウを得るとともに、学校、文化団体、他の文化施設等との交流を図り今後の事業展開に向けてネットワークを構築することを期待した。
- ・学校に向けて本事業をモデル事業として実施することで、子ども達がプロの演劇人と直にふれ合い、表現することの喜びを体感しながら様々なコミュニケーションや表現の方法があることを学ぶ機会とすること、また、学校教育のカリキュラムの中に鑑賞教室とは異なる形で演劇を取り入れる手法を広めることを期待した。

### ●企画・実施において苦労した点

- ・一般対象公募ワークショップにおける狙いと対象者の設定  
2回目派遣時は地元表現者を対象に、3回目派遣時は文化施設等のスタッフを対象に実施することを予定していたが、打合せを進める中で今後の展開も見据えて、メインターゲットに限らず公募したり、学校の教職員等にも対象を広げたりすることになった。当初は実施すること、集客すること自体が目的のように意識が働いていたため、本事業のそもそもの狙い、そのためにどのような人を対象に、どのようなワークショップを行うのかということについて教育委員会と市民文化会館の指定管理者とで共通認識をもって進めることに注力した。
- ・一般対象公募ワークショップにおける広報  
ワークショップの参加者募集に際し、ワークショップの内容等を簡潔明瞭に告知することに苦心した。演劇にあまり馴染みのない方の興味関心を惹くにはどうしたらいいのか、なるべく「演劇」「ワークショップ」という言葉を使わずにどのように説明できるか、このワークショップの魅力を言語化することに試行錯誤した。

### ●プログラムを実施した成果

- ・市の文化政策の方向性や今後の会館のあり方を考える時期に、試金石となる事業・プログラムに出会えたことは大きな収穫であった。「演劇」という言葉で捉えていた範囲を超えて、文化・芸術の力、自分達の果たすべき役割、公共ホールの可能性を認識した。行政と指定管理者との関係をより密にし、連携・協働して取り組むことの重要性を再認識した。
- ・学校教育の現場へ今回のような授業を届けていくことの重要性を実感を伴って再認識することができた。今回開催できた学校の先生方とは共通認識が持てたと思う。現場の先生方の前向きな取組姿勢がこういった授業の成果をより高めてくれると分かったので、日頃から顔の見える関係を築いていき、実施に際しては事前の協議や打合せを大切にすることだと学んだ。
- ・この地域に演劇の豊かな土壌があることに気づくことができた。これまで長く活動されてきた鑑賞団体や劇団の皆さんの賜物だと気づき、長く続けていってようやくそれが文化になるのだと実感した。アーティストや文化団体と協働して潜在的な市民のニーズに訴えかけること、市民の関心を喚起するシーズ志向で取り組むことが求められていると感じた。

### ●今後の展望

- ・次年度以降も今回のようなアウトリーチを継続し、義務教育期の子ども達が日頃の授業で身につけた知識や経験を活かす創造性や想像力、コミュニケーション力を育んでいきたい。
- ・会館においても今回のようなワークショップを続けていき、いずれは会館のレパトリー事業の一つとなるような、地域の人物やエピソードを題材とした舞台作品の制作・上演をプロを招いて市民協働で実現したい。

### 「やるかやらないか、絶好のチャンス」

内藤 裕敬

#### 地域の地理的特性を踏まえる

昨年の小田原に続き、東海道沿線の三島へ派遣となった。小田原は、湘南および横浜、東京とその立地から影響を受ける地域が広がっていたイメージを持っているが、山を一つ越えた静岡県の三島市は新幹線で都心へ一時間の条件もあり、東京へ通勤する方々のベッドタウンともなっており、またグランシップ（静岡県文化財団）の文化事業とも近く、加えて古くからの伝統の上に生活があるので、東京－三島－静岡－地域というように情報と文化が交錯する複雑さを感じた。お隣の沼津ならば「港町」と一言で言い表わせるが、東京に一番近い静岡の都市であり、静岡県からも文化の発信地とイメージされ、地元にも古くからの文化人が多い。これらの状況の上に、公共ホールがどのような特色を持ち、自主事業を展開するのかは、それ相当の難しさが生まれると思う。多岐にわたる地域の現状は悩ましい。

#### アウトリーチ事業への理解

そんな中、三島市教育委員会文化振興課の石井章代さんをはじめ、ホール担当の方々が前向きに未来を見つめて取り組まれていることに好感を持った。また、アウトリーチで訪れた小学校も、まず演劇ワークショップに対してアレルギーが無く、先生方も熱心。富士山と柿田川の清流を身近に暮らす子供達も、明るく自由に活発だった。校長先生、教頭先生も授業を見学して下さり、その意義と可能性に深く理解を感じて下さっていることに、今後の展望も開けると思えた。それは、この三島市が伝統の上に発展した現在、文教都市としての側面を確実に持っているということだろう。その意識は、芸術と創造力／想像力への理解につながっている。アウトリーチ事業の発展に大きな可能性を実感した。

#### ホール事業を「人」が引っ張る

さて、ホール事業はどうか。古くから活動する地元合唱団等の音楽団体が多数あると聞いた。その付き合いは継続すべきだろう。その他に劇団の数も多く、それぞれに意欲的な公演活動に取り組んでいる印象を受けた。しかし、新しさに欠けている。長年活動を維持されてきたことは評価できるが、だからこそ冒険が欲しい。地元の仲間達が身内でガンバリ続けている。そこに発展の可能性はあるのだろうか？ 劇団というのは、身動きが早くない。その体質と方法を転換することに臆病だ。新しい才能が欲しい。それも劇作家か演出家だ。演出家を育てるには長い時間がかかる。では、劇作家はどうか？ その可能性を持つ戯曲創作を体験したことのない才能は多く存在する。ひとりの劇作家、ひとりの演出家によって、地域の演劇状況があつという間に変化する事例は多々ある。幸い、三島で劇団同士の交流は盛んなようだ。沼津や小田原、清水ともネットワークを深め、新しい演劇人同士の出会いと、新しい才能の育成、他地域の人気劇団の招聘などを含め、十年後への取り組みが必要だと思う。

三島市という立地は、公共ホールが拠点になるための取り組みが多く、事業と絡む複雑な地域だと思う。一度に全ては無理であることは承知している。何から始めるかだ。一步踏み出せば逆風も吹くだろう。ホールの改修を機に、それをする時期に来ている。まずは「人」がいるかどうか。それをする「人」が居ない地域が多い。しかし、この度の派遣で「人」は居ると思われた。教育の現場、劇場の現場にも、演劇の現場にも、一步踏み出して先に進む先頭に立てる「人」が三島市には居ます。あとは、やるかやらないか。それだけ。ここでやらないと、三島市は後悔する。後の祭りになる。今だと思う。



## 延岡総合文化センター（宮崎県延岡市） 実施データ

実施団体	(公財) 延岡総合文化センター
実施ホール	延岡総合文化センター
担当者	三田昌樹 内田光俊
実施期間	1回目派遣：平成27年4月6日（月）～4月7日（火） 2回目派遣：平成27年6月3日（水）～6月7日（日）
アーティスト等	アーティスト：多田淳之介 アシスタント：夏目慎也 難波早
<p>■ 1回目派遣内容</p> <p>4月6日（月）上南方小中学校打合せ及び会場下見 4月7日（火）延岡総合文化センター会場下見及び打合せ 延岡市内視察（内藤記念館）</p> <p>■ 2回目派遣内容</p> <p>6月3日（水） 9：30～11：20 上南方小中学校アウトリーチ 小6年1組33名 会場：学校 体育館 14：00～16：10 延岡高校演劇部 WS 高校演劇部16名 会場：センター練習室</p> <p>6月4日（木） 10：35～12：25 上南方小中学校アウトリーチ 中2年1組19名 会場：学校 教室 19：00～21：10 シニア劇団「笑銀座」WS シニア劇団員19名 会場：センター練習室</p> <p>6月5日（金） 10：35～12：25 上南方小中学校アウトリーチ 中1年1組16名 会場：学校 教室 14：15～16：05 上南方小中学校アウトリーチ 中3年1組19名 会場：学校 教室 19：00～21：10 一般対象公募 WS 一般劇団員12名 会場：センター練習室</p> <p>6月6日（土） 18：00～20：10 一般対象公募 WS 一般劇団員15名 会場：センター練習室</p>	

## スケジュール

宮崎県延岡市／延岡総合文化センター

	1回目派遣		2回目派遣				
	4 / 6 (月)	4 / 7 (火)	6 / 3 (水)	6 / 4 (木)	6 / 5 (金)	6 / 6 (土)	6 / 7 (日)
9：00							
10：00		会館打合せ 会場下見	小学生 アウトリーチ	中学生 アウトリーチ	中学生 アウトリーチ		全体 フィードバック
11：00							
12：00							
13：00		市内視察	高校演劇部 WS		中学生 アウトリーチ		
14：00							
15：00							
16：00	学校打合せ 会場下見				学校 フィードバック		
17：00							
18：00						公募型 WS	
19：00			地元劇団 WS	公募型 WS			
20：00							
21：00							
22：00							

## プログラム詳細

### 上南方小中学校アウトリーチ

6月3日（水）9：30～11：20

小学6年生を対象としたアウトリーチ事業です。

絵本を参考にしながら、物語の一場面をグループで考えて表現する様子です。多くの子供たちがアシスタントの先生たちの指導を仰ぎながら、子供たちの自由な発想で喧々譁々を繰り返しながら表現していました。グループで考えて表現する事の大切さ、面白さを感じているようでした。先生達も一緒に参加していただきました。



### 上南方小中学校アウトリーチ

6月4日（木）10：35～12：25

中学生を対象としたアウトリーチ事業です。

色々な「もの」をグループで表現している様子です。校舎であったり、飛行機であったり、病院であったり…。男女仲良く話し合い、表現していることが新鮮に映りました。小学生とはまた違ったスピード感とリーダーシップをもって取り組んでいました。

それぞれのグループ発表に拍手喝采でした。



### 一般対象ワークショップ

6月5日（金）19：00～21：10

地元の演劇団体を中心とした公募型ワークショップです。

演劇経験者が多数を占めた為、発想が奇抜で面白いものが多く、表現も細やかで、凝ったものが多かったです。ワークショップを通じてそれぞれの個性を思い存分に表現していました。アーティストから何かを吸収したいという姿勢が参加者から強く感じられました。



### 一般対象ワークショップ

6月6日（土）18：00～20：10

地元で活動している演劇人2名によるワークショップです。

前日、アーティストよりマンツーマンの指導を受け、公募型による参加者に対して行うワークショップです。日程的な余裕のない中、一生懸命にアーティストのアドバイスに沿ったワークショップを表現したいという姿勢を強く感じました。レベル的にはまだまだ努力を要しますが、共に勉強しながら今後のワークショップの実施に向けていきたいと思えます。



### ●この事業への参加動機

延岡総合文化センターでは、音楽部門（オペラ関係団体の協力）の学校向けアウトリーチ活動を3年間行ってきて、学校関係者より好評を得ました。音楽部門だけでなく演劇部門のアウトリーチ活動も視野に入れ、これからもこの事業を続けていきたいという想いにより、今回応募させていただきました。本事業に参加することで、地元演劇人の中からアウトリーチ活動をやりたいという欲求がわいてくることを期待しています。また、時間はかかるかもしれませんが、アウトリーチ活動のできる人材が育っていくこと、様々な側面から会館として応援できるのかを模索できればと思っております。

また、学校関係者に対しても今回の事業で接する機会により、どのようなものか受け入れてもらうことができるのか、どのようなものを学校側が求めているのか、そのような視点から今後の事業の在り方を探ることができればと思います。会館事業の一環として、インドアからアウトドアを目指して、長いスパンで考えていきたいと思っております。

### ●企画・実施において苦労した点

普段直接的に演劇関係者と接する機会に限られるため、事業を行うにあたり演劇関係者と連絡を取り合うことが大変でした。会館にかかわる劇団員の方々は問題ありませんが、エリアを広げた募集となると、活動している劇団の代表者や連絡先が把握しきれず、時間を費やすことにもなりました。

学校アウトリーチに関しましては、市の教育機関を通じて情報をいただき、アウトリーチ事業に興味の持っていた学校を把握し、直接校長先生にお会いして、事業の説明及び協力依頼等を話せたのはよかったです。その後の話がスムーズに進行しました。日程の関係で、3回実施するところを2回に変更しましたが、時間的に多少無理があったのではと思われました。

### ●プログラムを実施した成果

プログラムを実施したことにより、特に地元演劇関係者より多くの意見をいただき、劇団独自の動き、及び劇団から外へ向けた活動への目線の変化等が感じられます。実際、劇団予算でアウトリーチの講習会の開催を企画したり、学校向けアウトリーチを積極的に取り組みたいという意見をいただいたり、アーティストからいただいた方法論を実際に行うことへの意欲を強く感じているところです。

学校アウトリーチに関しては直接的にはお伺いしておりませんが、アンケートを通して感じることは、小中学生一人一人が、演劇アウトリーチに触れて、演劇に少し興味を持っていただけた事です。将来的に地元演劇を土台から支える力になってくれる事を強く希望するところです。

### ●今後の展望

アウトリーチ及びWSを通して地元演劇関係者から様々な意見を伺い、劇団独自の活動及びワークショップに目を向けた劇団向けワークショップの講習会等、動きが実際に始まっております。当財団の考えている学校向けワークショップ実施に向け月一回ですが、会議を開き、劇団員・当方職員にて喧々諤々、話し合い及び実戦練習を通して行っているところです。今回の活動を通してアーティストより教え学んだ事をより深く追及して、実際の学校向けアウトリーチを開催する予定になっております。

### 「地域と演劇をつなぐホールの役割」

多田 淳之介

#### 地域を愛する人たちとの共同作業

今回の派遣先は宮崎県延岡市にある延岡総合文化センター。延岡は宮崎空港から二時間、江戸時代は延岡城の城下町として、近代では旭化成の企業城下町として栄えた歴史を持つ旧城下町。城山と呼ばれる城址には、千人殺しの石垣というものすごいネーミングの立派な石垣も残り、薪能やお祭りなども行われ街の人の集いの場となっている。そして一番驚いたのが、130年以上にわたって今もなお鐘守りが鐘を突き続けていること。午前中は朝6時から2時間毎、午後は15時と17時に城山の鐘が鳴り、市民に時を告げる。現在は経済の中心は宮崎市に移り、かつての繁栄は見られなくとも歴史文化の残る街としての魅力を十分に持つ場所だと感じました。延岡総合文化センターの担当者のお二人も、地元出身で地域愛に溢れる方でした。今回は一回目派遣が全体研修会の前でしたが、事前のメール連絡などでそれほど問題なく行えたと思います。派遣先の上南方小中学校での下見、打ち合わせも校長先生が非常に理解のある方で、生徒の様子や教員としての希望も率直に伝えていただき非常にスムーズでした。最近の生徒は真面目すぎてバカができないという言葉が印象的でした。

#### 演劇活動が街にもたらすものは何か

ホールでの一般向けWSは、延岡高校演劇部へのWS、のべおか笑銀座という市民劇団へのWS、地元表現者のWSスキルの向上というオーダーでした。高校演劇部へのWSはここ数年非常に増えているオーダーですが、高校の演劇部というのは一般の人が思っている以上に千差万別で、ただプロの演出家が行けばどうにかなるものではありません。今回も高校生たちと一度会って彼らの話を聞くことから始めました。勝つことを目指している部もあれば、もっと楽しく演劇をやりたいという部もあります。例えば演技についてのWSではなく演劇部内のコミュニケーションを良好にするためのワークショップというのもあると思います。今回は彼らの話を聞いて、演劇を使ってお互いや人間について色々発見ができるようなものにしました。

市民劇団についても同様で、演技のWSを単発でやることには非常に抵抗があります。こちらでも事前に本人たちと話をさせてもらいました。この部分は本来ならばホール側で意思疎通を取っておいてほしいと思っています。彼らが何のために演劇をやっているのか、どういうことをしたいのか、彼らの活動が街にとってどういう価値があるのか、そこをホール側が理解して初めて外部から講師を呼んでWSが必要かどうかという話になるべきでしょう。延岡もホールと市民劇団のコミュニケーション自体は取れているのですが一步踏み込みが甘いという印象でした。今後は笑銀座の方からホールにもっとオーダーを出してもいいと思います。非常にポテンシャルの高い劇団なので今後に非常に期待しています。WSも大いに笑わせていただきました。さすが笑銀座。

#### ホールと地元表現者の関係性

最後に地元表現者のWSスキルの向上ですが、このリージョナルシアター事業で一番の難関で

---

ありますが、こういったオーダーが出てくると自体日本の地域演劇が変わってきていると感じます。これもホールと地元表現者のコミュニケーションが全てです。延岡では松本さん誉田さんという演劇のスキルもありモチベーションも高いお二人がいらっしゃるので、彼らをどう生かしていくかが今後の課題です。この二人がいることは全国的にも恵まれていると感じてほしいです。今回は彼らへのレクチャーと、プレWSの実施というプログラムでしたが、プレWSの参加者の手配を表現者の二人が主に行っていたことなどはホールとして反省してほしい部分です。そのこと自体は仕方ないとしてもなぜそうなのかというコンセンサスがお二人と取れていなかったと思います。事業後のコメントでも今回の事業が二人の表現者とホールの関係をお互い確認するきっかけになったようで非常に嬉しく思っています。今後ホールが彼らとアウトリーチを展開する具体的な計画もあるので、表現者とホールが共に歩み、街のために活動する好例となってくれるでしょう。歴史文化の街延岡が末長く人々に愛される街になることを願っています。

# アウトリーチ実施校データ

○学校の授業枠で実施(※団体・ホール名、学校名は実施当時の名称)

## 平成25年度 モデル事業

参加団体	参加ホール	アウトリーチ講師	学校名	対象学年	参加人数(人)	参加合計(人)
上田市	上田市交流文化芸術センター(2014年10月開館予定)	内藤 裕敬	中塩田小学校	4年生	95	95
(公財)豊田市文化振興財団	豊田市民文化会館	岩崎 正裕	明和小学校 ※ア	1～6年生	21	112
			中山小学校	5年生	91	
(公財)高知市文化振興事業団	高知市文化プラザかるぼーと	多田淳之介	行川中学校	1～3年生	23	55
			田上 豊	第六小学校	4年生	
【備考】 ※ア:連続2日間実施した。			小学校 4校 中学校 2校 合計 6校			262

## 平成26年度

参加団体	参加ホール	アウトリーチ講師	学校名	対象学年	参加人数(人)	参加合計(人)
株式会社地域文化創造	茅野市民館	岩崎 正裕	永明小学校	5年生	94	157
			北山小学校	5年生	27	
			米沢小学校	5年生	36	
NPO法人コミュニティ アートセンターブラッツ	豊岡市民プラザ	田上 豊	資母小学校	5、6年生	21	80
			豊岡小学校	4年生	59	
【備考】			小学校 5校			237

## 平成27年度

参加団体	参加ホール	アウトリーチ講師	学校名	対象学年	参加人数(人)	参加合計(人)
(公財) 坂井市文化振興事業団	みくに文化未来館	岩崎正裕	三国西小学校	6年生	27	55
			加戸小学校	4年生	28	
静岡市文化振興財団 共同事業体	静岡市民文化会館	田上豊	安西小学校	6年生	59	104
			足久保小学校	4年生	45	
三島市教育委員会	三島市民文化会館	内藤裕敬	山田小学校	4年生	68	122
			北上小学校	4年生	54	
(公財) 延岡総合文化センター	延岡総合文化センター	多田淳之介	上南方小学校	6年生	33	87
			上南方中学校	1～3年生	54	
【備考】			小学校 8校			368

平成27年度リージョナルシアター事業報告書

発行 ————— 一般財団法人地域創造

編集 ————— 一般財団法人地域創造

発行日 ————— 2016年3月

